

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
国語科	○「話すこと・聞くこと」のスピーチやインタビューにおいて、相手の話の内容や意図を捉えながら必要な情報を聞き取り、聞いたことを比較・関連付けたり、話し合いを通して自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○「書くこと」において、事実と感想・意見を区別しながら、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、自分の考えが読み手に伝わるように書き表し方を工夫すること。また、推敲を通して、文章の分かりやすさや表現の適切さを確かめ、よりよい文章にすること。 ○「読むこと」において、説明文では、筆者の意図や表現の効果、叙述を根拠として内容を捉え、読んだことをもとに自分の考えを形成したり広げたりすること。また、物語文において、登場人物の相互関係や心情の変化、人物像を叙述や描写を基に捉え、考えを深めること。 ○敬語や語句、漢字について理解したことを日常生活や学習場面において適切に活用し、語彙を豊かにして表現に生かすこと。	○話す目的や聞く視点を明確にした上で、スピーチやインタビュー、話し合い活動を計画的に取り入れる。聞き取った情報を整理・比較したり、友達との話し合いを通して考えを広げたり深めたりする活動を充実させ、自分の考えを形成する力を育成する。 ○構成メモや思考ツールを活用して情報を整理し、「考えと理由」「事実と意見」「原因と結果」等の関係を意識した文章指導を行う。また、互いの文章を読み合い、話し合いながら推敲する活動を通して、目的に応じた表現力を高める。 ○説明文では、筆者の考えや文章構成、表現の工夫に着目し、叙述を根拠に考えをまとめる活動を充実させる。物語文では、登場人物の行動や会話、情景描写などを基に心情や人物像を捉え、話し合い活動を通して多様な考えに触れながら、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ○敬語や語句の使い方については、日常的な言語活動や話し合い活動の中で活用する機会を設ける。漢字については、学習や生活と関連付けながら繰り返し活用する場面を設定し、定着と活用を図る。
社会科	○単元の導入では、児童の問題意識が醸成されるような資料を提示し、単元を貫く学習問題を作っていくための工夫をすること。 ○先行した知識に頼るのではなく、資料を的確に読み取りながら社会的事象について考えること。 ○調べる活動において、調べた内容を工夫してまとめること。 ○調べたことを分かりやすくまとめたり、友達に伝えたりすること。	○児童が疑問を抱くような資料を提示し、その疑問に対する予想を考えさせるようにする。児童の予想を整理しながら、学習問題を設定できるようにする。 ○資料を読み取る場面を意図的に設定し、読み取ったことや考えたことを学級全体・児童同士で共有する活動を取り入れる。 ○思考ツールを活用したまとめ方を教えたり、工夫してまとめられている児童のまとめ方を紹介したりして、自分に合ったまとめ方を選択できるようにする。 ○単元の後半では、学習した内容や自分の考えをまとめる時間をしっかりと確保する。また、まとめ方の例を提示する。

算 数 科	○数学的な見方・考え方を働かせて、数量の関係を捉え、それを式に表すこと。 ○比や分数の学習において、どの数値が「1あたりの数」の数を表しているのかを捉えること。 ○文字を使った式を、具体的な場面と結び付けて考えること。 ○分数を約分したり、比を簡単に表したりすること。	○図や表、線分図等を活用し、立式前に数量関係を整理する活動を充実させる。 また、「なぜこの式になるのか」を説明し合う活動を取り入れ、式の意味を考える習慣を育成する。 ○表や数直線を用いて、「全体」「1あたり」「求めたい量」の関係を視覚的に捉えさせる。 また、比、割合、速さなどの学習と関連付けながら、単位量を活用した学習を継続的に取り入れる。 ○場面図や具体的な数値を用いた活動から文字式へとつなげる活動を行う。 また、「文字が何を表しているのか」を意識させることで、文字式の意味理解を深める。 ○約数・倍数の復習を計画的に行い、既習内容との関連を意識させる。 また、約分を機械的な手続きではなく、「同じ大きさの分数に表し直すこと」として理解させるとともに、反復的な練習を充実させる。
理 科	○問題作りをする際に、事象を比較したり、既習事項を適用したりして、疑問をもつこと。 ○既習事項を活用して、実験計画を考えること。 ○実験結果から、分かったことと分からないことを区別して考察すること。 ○学習した内容を既習事項と関係づけて考察すること。 ○学んだことを日常生活と事象を結び付けて考えること。	○違いや共通点を見付け、疑問につなげられるような事象の提示を単元の導入で実施する。 ○単元のつながりを基に、活用できる知識や技法を予め提示し、実験計画を立案できるように支援する。 ○実験結果から分かったことと分からないことを区別して板書にまとめる。さらに、分からないことについては、どこがどのように分からないのか具体的に考察することで、知識を明確にする。 ○獲得した知識と、既習事項を結び付ける方法を繰り返し行うことで、児童自らが知のネットワークを構築できるようにする、 ○日常生活の中で児童が感じている疑問等を出発点とした授業作りを行う。

音楽科	○歌唱では、表現するために必要な技術が十分でないという思いや、恥ずかしさからか、やや消極的になってしまうこと。	○歌唱の表現に必要な基礎的な能力を育てるために、短い楽曲を用いてのびのびとした発声で歌える技能を育てる。その際、ゲームや挑戦的な要素を盛り込み、ドリル的な活動にならないように留意する。 ○担任の先生との連絡を密にして、安心する学級の土壌の上に表現などの学習ができるようにする。 ○ICT 機器や教材の活用の仕方の工夫を行い、例えば、練習用動画を活用したり、楽譜を活用したりする学習を同時進行で行うなど、個に応じて課題を変えるなど、個に応じた指導の充実を図る。 ○互いの演奏をよく聴き、相手の演奏のよさを言葉にして伝え合うことを習慣化させることで、皆で一つの曲をつくり上げる素晴らしさや達成感を味わえるようにする。
図画工作科	○消極的な児童の意欲を引き出すこと。 ○テーマに合ったイメージを発想することが苦手な児童への支援が必要であること。	○様々な表現方法を経験させ、表現の幅を広げ、どの児童もつくり出す喜びを味わうことができるよう指導する。これまでの経験を生かし、児童が表現に適した方法などを組み合わせて工夫することができるように、材料や用具を選択できる場の設定を行う。 ○導入で ICT 資料を提示したり、教師の手元を見せたりし、具体的なイメージをもたせやすくする。また、支援が必要な児童には個別指導を行う。
家庭科	○既習事項を生かして学習できる題材構成にすること。 ○一人一人に基礎的・基本的な知識及び技能を定着させること。	○題材ごとのつながりを明確にして、既習事項を振り返りながら指導を進める。 ○家庭での経験の差が見られるため、学習内容によってグループ指導・個別指導を適切に取り入れる。
体育科	○体の使い方や動かし方など、どうしたらできるようになるかを意識し、運動すること。また、考えたことを他者に伝えられるようになること。 ○勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたりすること。 ○できない運動に対しても、課題を見出し、一つずつ解決していくことを通して、粘り強く運動に取り組むこと。	○技や動きのポイントを指導し、仲間同士で確認したり、手本と見比べて課題を見い出したりする時間を確保する。また、見付けたこつや助言を伝えるための学び合いの進め方も指導する。 ○運動中や振り返りの時間に、仲間を励ましたり、前向きに運動に取り組んだりしている姿を認め、肯定的な助言を全体に向けて伝える。 ○単元ごとに、主運動につながる感覚作りの運動を帯の時間で確保する。また、安全かつ効果的に運動が行えるよう、場の確保や用具の準備を計画的に行っていく。さらに、見通しをもって運動に取り組めるように、スモールステップで個別に課題を選択していけるような授業計画を取り入れる。

外国語科	○「聞くこと」において、既習の英単語や英語表現から場面や状況などを想像しながら、文章全体の意味をおおむね理解すること。 ○「話すこと」において、場面や状況などに配慮しながら、自分の気持ちや考えなどを既習の英単語や英語表現を用いながら相手に伝えること。 ○中学校へ向けて学習内容が徐々に難しくなっていくため、学習の定着度を高めること。	○教師は扱う英語表現を精査し、既習の英単語や英語表現は都度確認する。また児童に英語を聞かせるときには動画や写真、デモンストレーションなどを見せることで、児童には場面や状況などを想像しやすくし、文章全体の意味をおおむね理解できるようにする。 ○基本的な英語表現を歌やチャンツなどで児童に慣れ親しませ、児童が身に付けた英語表現を場面や状況に応じて使ってみたいと思えるような課題や活動を意図的に授業の中に取り入れる。 ○ICT教材やデジタル教科書、発表用スライドなどを有効的に活用し、児童が自ら学び方や学習内容を選べるようにするとともに個々の学びをより深められるようにする。
道徳	○児童一人一人が価値について自分ごととして考えていけるよう授業展開を工夫すること。 ○友達の思いや考えによって自分の考えがどのように変化したかを考えるなど、多様な考え方を受け入れ、認めていくこと。 ○自分自身の感じたことや考えたことを大切にし、自己を見つめていくこと。	○児童の実態に応じて教科書以外の教材も活用する。また、少人数での話し合い活動を取り入れたり、振り返りの発問を工夫したりすることで、一人ひとりが価値について考えていけるよう授業展開を工夫する。 ○児童が多様な考え方に触れられるように、他者との思いや考えを共有する時間を毎時間確保する。 ○毎時間の終末で、自己を見つめることができるように、振り返りの時間を十分な時間確保し、全体で共有できるようにしていく。
総合的な学習	○目的や課題意識をもって、必要な情報を主体的に収集・整理しながら探究活動を進めること。 ○集めた情報を比較・関連付けて考察し、自分なりの考えや課題解決の方法を見い出すこと。 ○相手や目的を意識し、資料や表現方法を工夫しながら、自分の考えや学習の成果を分かりやすく発信すること。	○課題設定の場面では、資料提示を工夫したり、行事や自己のキャリアに関連したテーマを設定したりするなど、児童が自ら問いを見い出せるようにする。また、探究の見通しをもたせ、目的意識をもって情報収集に取り組めるようにする。 ○情報を整理・分析する際には、比較・分類・関連付けのための思考ツールを活用し、自分なりの考えや課題解決の方法を導き出せるようにする。 ○まとめ方については、プレゼンテーションソフトだけでなく、パンフレットやポスター、体験型の発表など様々な方法があることを提示し、目的や相手に応じて児童が選択できるようにする。また、聞き手との関わりを意識した話し方や資料提示の工夫についても確認し、分かりやすく伝える力を高められるようにする。